第３学年３組　体育科指導案

１　単元名　小トラックリレー（走・跳の運動）

２　単元について

⑴　運動の特性

①　一般的特性

・小トラックリレーのウ運動では、距離を決めて調子よく走ったり、走りながらバトンパスをする周回リレーを競争しながら楽しさを味わったりすることのできる運動である。

　　②　児童から見た特性

　　・小トラックリレーで競争すること、リレーをすることでより楽しく競争するための工夫を考え、リレーを通して全力で走ったりコーナーを走ったりする動きや感覚を楽しめる運動である。

　⑵　児童の実態

　　　本学級の児童は明るく活発な児童が多く、体育の授業に意欲的に取り組んでいる。朝なわとびや休み時間の外遊びにも、子ども達と楽しく取り組んでいる光景が多く見られる。㋈にあった運動会に向けて子ども達から自主的に休み時間の小トラックリレーに取り組んでいる。しかし、その意欲にはムラがありやる気のない児童がだらだら練習する風景も見られた。

　　　また、本学級の児童は素直な子が多いのが特徴である一方、自己中心な言動をとってしまう児童が数名いる。単元を通してチームワークを築いていくのに要所要所での支援が必要であると考えられる。運動会のためにすでに小トラックリレーを練習してきているため、バトンパスの技能は高まってきているが、コーナーに関してはまだ不慣れでうまく曲がり切れない児童もいる。だが、自分のチームの足りないところはある程度把握しているので自由練習の際には各チーム一生懸命に課題に取り組めている。

⑶　教師の指導観

　　　関心・意欲については，児童がリレーをまたやりたいと思えるような場づくりを 工夫していきたい。そのために、能力差に応じたコースをチームの話し合いで選べるようにし，苦手意識を持っている児童も取り組みやすいようにする。勝敗の判定も、単に速いチームが勝つので はなく、チームの協力が必要となるようなルールを設け、みんなが楽しんで運動できるようにしたい。また、「教え合い」の視点に、励ましの言葉や応援も含まれていることを指導し、自己評価の判 断材料として意識させ運動に取り組ませる。態度面については、勝敗の結果を素直に認められるように、オリエンテーションで事前指導する。 学び方については、走り方やバトンパスにおける各自の課題を設定し、チーム練習の中でそれを 互いに教え合える（アドバイスできる）ようにする。そこ、声がけしやすいように見る場所を決め、約束を守って行動できるようにさせたい。 技能面については、目線に気をつけまっすぐ走ること、加速するために低い姿勢をとること、リードをとりながらバトンを受け取り、左手から右手に持ち替える動作を素早くできることを指導する。しかし、強制的な指導ではなく、そうせざるを得ない状況をつくるように、場づくりを工夫したい。そして，基本の運動のねらいにもあるように「課題への取り組みなどを楽しく行う」ことを意識し、どの子も体を動かすことの心地よさや仲間と触れ合うことの楽しさを体感できるようにさせたいと考える。

３　単元目標

　⑴　進んで運動に取り組み、友だちと競争したり、勝敗を受け入れたりすることができるようにする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（関心・意欲・態度）

　⑵　仲間との競争の仕方を知り、競争のルールを選ぶことができるようにする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（思考・判断）

　⑶　コーナーの走り方を身に付け、調子よく走ることができるようにする

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（技能）

４　単元の指導計画（10時間扱い）

　⑴学習計画

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業 |  | | | | | | | | | | |
| 時間 | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ | ９ | １０ |
| 5  10  　15  20  25  30  35  40 | 集合・整列・あいさつ・健康観察・服装確認・学習内容の確認・準備運動 | | | | | | | | | | |
| １　学習の進め方を知る。  ２　小トラックリレーの約束を知る。  ５　チーム編成をする。  ６　試しの運動をする。 | １　学習ねらいを知る  ２　小トラックリレーの学習のねらい  を知る。  ３　小トラックリレーをする。  簡単なルールで小トラックリレーを楽しむ  チームで走り方を工夫して記録に挑戦したり、競争したりする。    ・１周５０～６０ｍのトラックを走　　・体を内側に倒す、外側の腕を強く振るな  る。　　　　　　　　　　　　　　　　どの走り方に気づくことができるように  　・２チームで競争する。　　　　　　　　、児童による演示を行う。  　　（１チーム４人～５人）　　　　　　・実態に」応じてバトンゾーンを設定し、  　・待ち方や応援の仕方、マナーを　　　　ゾーン内でのバトンパスやリードを指導  　　指導する。　　　　　　　　　　　　　する。  　・コーナートップについても指導す　　・学習の流れは「レース１→話し合い→・  　　る。　　　　　　　　　　　　　　　　練習→レース２」とする。 | | | | | | | | | |
|  | 集合・整列・学習のまとめ・整理運動・次回の予告　あいさつ | | | | | | | | | | |

　本時の学習指導（10/10）

⑴　ねらい

　〇バトンパスやコーナーの走り方を身に付けることができる。

（技能）

⑵　準備

　・カラーコーン　・バトン

⑶　展開〇指導、🔶評価、◎十分満足できる具体的な姿、△努力を要する児童への手立て

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段落 | 学習内容・活動 | 指導上の留意点 |
| 導  入  10  分 | １　集合・整列・挨拶・健康観察・服装確認・学習内容の確認  ２　準備運動をする。  ３　感覚つくりの運動をする。  ⑴　コーナー走リレー        （ルール）  ・バトンを使用  ・二カ所のスタート地点から同時に走り始める  ・多少リードをして受け取るバトンパスはよい  ・勝敗を判断するのはペアチーム  ・同時ゴールの時はじゃんけん | 〇学習規律の定着を意識して、準備運　動の隊形など、繰り返し指導する。  〇それぞれの動きがただ行うだけにならないように、一つ一つポイントを確認して行えるようにする。  〇コーナー走では、内側に軽く体を傾けて走ることを意識してできるようにする。  〇教師の示範により、技術ポイントを共有できるようにする。 |
| 展  開  30  分 | ４本時のねらいを知る。  ５　バイパスリレーを行う。        （ルール）  ・走るチームは2チームずつ  ・相手のチームや仲間の罵倒をしてはならない  ・短縮ルートが使えるのは行きに一人帰りに一人の計二人  ・短縮ルートを使う人は帽子を赤  ・アンカーは帽子を外す  ・勝敗を判断するのはペアチーム  ・同時ゴールの時はじゃんけん  （流れ）  ①スタートの場所をじゃんけんで決める  ②笛の合図で1走から走り出す  ③走り終わったらタイムを聞いて速やかに次のチームと場所を移動する  ６　話し合い・練習時間を設ける。  ・コーナー走で使用したコースは使用可能  ・ホワイトボードを渡し各グループの課題を書かせる  ７　二回目のバイパスリレーを行う。  ・ルールや流れは先ほど行ったものと同じで行う | リレーで勝つためにコーナーの意識やバトンパスをより上手にしよう  〇ルールの確認をする。  〇コーナー走で行った感覚を大切にしながら、コーナーを走ることを伝える。  〇走る順番を待つ児童・走り終わった児童にはペアチームの走りを見て改善点伝える。  〇ペアチームのよかった走りを参考に自分も取り入れてみる。  🔶バトンパスやコーナーの走り方を身に付けることができる。（技能）  ◎自分のチームの課題を話し合いの中でみつけ、課題克服のために適した練習を行っている。  △必要に応じて練習を止め、課題となる場面を具体的に振り返り、個人やチームに動き方について助言をしていくようにする。  〇先ほどのリレーで負けてしまっているチームを中心にかかわるようにする。  〇走る順番を待つ児童・走り終わった児童には他のチームの走りを見て一回目と比べてよかった点をペアチームに伝える。  〇ペアチームの走り方を見て練習をしてどこが改善でき、どこが課題なのかを伝える。 |
| ま  と  め  ５  分 | ８　今日の学習を振り返る。  ９　整理体操をする。  １０　用具を片付ける。  １１　挨拶をする。 | 〇自分のチームが今日のリレーで工夫したことについて振り返るようにする。  〇素早く安全に片付けられるようにする。  〇次回の予告をする。 |